千代田区　昼間区民向けアンケート　調査票案 ver.2

○　SA：　単一回答
□　MA：　複数回答
　　FA：　自由回答

■調査対象者

性別：男女
年齢：20歳～79歳
職業：学生、公務員、会社員、団体職員、自営業
地域：1都3県
子供の有無：指定なし
未既婚：指定なし
その他の条件：千代田区に通勤・通学の方

2 施策「重要度」評価

回答対象者条件：全員

MA

本アンケートは、千代田区内に通勤・通学されている方を対象としております。
千代田区が取り組んでいる施策について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

Q1

千代田区では、通勤・通学者にも関連する施策として、下記の25施策（千代田区第3次基本計画）に取り組んでいます。
下記の25施策の中で、特に重要な施策だと思う項目を最大で5つまでお選びください。

【 地球環境・生活環境 】
□ 1. 地球温暖化対策として二酸化炭素（CO2）削減に取り組みます
□ 2. ヒートアイランド対策を推進します
□ 3. 身近な緑を増やし、うるおいのあるまちをめざします
□ 4. ごみの減量やリサイクルを通じて資源循環型都市をめざします
□ 5. 騒音・振動などの公害がないまちをめざします

【 安全・安心 】
□ 6. 犯罪・事故などに対する危機管理体制を整備します
□ 7. 生活環境の改善に取り組みます
□ 8. 高齢者、障害者など、災害時に支援を必要とする人たちの安心を支えます
□ 9. 千代田区内に通勤・通学されている方（昼間区民）への災害時支援体制を確立します
□ 10. 建物の耐震化に取り組みます
□ 11. 新型インフルエンザなど健康を脅かす事態に迅速に対応する態勢を整えます

【 景観・住宅・まちづくり 】
□ 12. 地域ごとのまちづくりのルールをつくります
□ 13. 多様な暮らし方に対応する住宅施策に取り組みます
□ 14. 交通バリアフリーのまちづくりを推進します
□ 15. 自転車も歩行者も安心して利用できる環境を整備します
□ 16. 景観を守り育て、都心千代田の魅力を高めます

【 コミュニティ・商工振興 】
□ 17. 地域力の向上を支援します
□ 18. 豊富な観光資源を活用し、千代田の魅力を高めます
□ 19. 商店会（街）や中小企業を応援します
□ 20. 安全で安心な消費生活を支援します

【 文化芸術・スポーツ 】
□ 21. 気軽に文化や芸術に親しめる環境の整備に取り組みます
□ 22. スポーツに親しめる環境づくりを進めます
□ 23. 豊かな歴史や文化資源を楽しみ、親しめる環境づくりに取り組みます

【 平和・人権 】
□ 24. 男女平等の理念が実現される社会をめざします
□ 25. 国際交流・協力や平和活動を推進します

3 施策目標「達成度」評価

回答対象者条件：全員

SA

Q2 あなたは、千代田区が取り組んでいる下記の25施策の達成度について、どのように感じていますか？
それぞれあてはまるものをお選びください。

		1 達成されている	2 どちらかといえば達成されている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば達成されていない	5 達成されていない
■ 千代田区が取り組んでいる、【 地球環境・生活環境 】に関する施策の達成度の評価は？						
1.	**地球温暖化対策として二酸化炭素（CO2）削減に取り組みます** （説明）地球温暖化の原因とされるCO2排出量削減に向け、積極的に省エネルギーの促進や新エネルギーの導入に取り組んでいきます。	○	○	○	○	○
2.	**ヒートアイランド対策を推進します** （説明）都心部の気温が郊外と比較して高くなるヒートアイランド現象を緩和する対策を進めます。	○	○	○	○	○
3.	**身近な緑を増やし、うるおいのあるまちをめざします** （説明）区内に残された自然を守り、新たな緑や水辺を創出します。	○	○	○	○	○
4.	**ごみの減量やリサイクルを通じて資源循環型都市をめざします** （説明）リデュース・リユース・リサイクル（3R）を促進することにより、清掃工場での焼却処理量や東京港の埋立所分量を削減します。	○	○	○	○	○
5.	**騒音・振動などの公害がないまちをめざします** （説明）多種多様な都市・生活型公害を改善して区民生活を守ります。	○	○	○	○	○
■ 千代田区が取り組んでいる、【 安全・安心 】に関する施策の達成度の評価は？						
6.	**犯罪・事故などに対する危機管理体制を整備します** （説明）犯罪・事故等の予防や発生した場合、迅速・適切に対応ができる体制を整備します。	○	○	○	○	○
7.	**生活環境の改善に取り組みます** （説明）区民や事業者など全ての人々の主体的・具体的な取組みを通じて、安心で快適なまちづくりを進めます。	○	○	○	○	○
8.	**高齢者、障害者など、災害時に支援を必要とする人たちの安心を支えます** （説明）大きな自然災害の発生に備え、高齢者や障害者への支援体制を整備します。	○	○	○	○	○
9.	（説明）平日の日中に大災害が発生した場合に予想される、多くの帰宅困難者への対応や支援体制を整備します。	○	○	○	○	○
10.	**建物の耐震化に取り組みます** （説明）地震による住宅の損失や建物の倒壊による避難経路等の遮断を防ぐため、建物の耐震化を推進します。	○	○	○	○	○
11.	**新型インフルエンザなど健康を脅かす事態に迅速に対応する態勢を整えます** （説明）健康危機の発生に備えた体制を強化し、健康を脅かす感染症などの発生時に適切な対応をします。	○	○	○	○	○
■ 千代田区が取り組んでいる、【 景観・住宅・まちづくり 】に関する施策の達成度の評価は？						
12.	**地域ごとのまちづくりのルールをつくります** （説明）地域の合意に基づいて「地区計画制度」を適用し、住と職のバランスのとれたまちづくりを推進します。	○	○	○	○	○
13.	**多様な暮らし方に対応する住宅施策に取り組みます** （説明）住む人の年齢やライフスタイルに応じた多様な住宅施策を展開します。	○	○	○	○	○
14.	**交通バリアフリーのまちづくりを推進します** （説明）誰もが安全で、安心して快適に移動できる交通環境を整備します。	○	○	○	○	○
15.	**自転車も歩行者も安心して利用できる環境を整備します** （説明）環境にやさしい自転車を活用し、都心部にふさわしい新たな交通手段を確立します。	○	○	○	○	○
16.	**景観を守り育て、都心千代田の魅力を高めます** （説明）風格、気品、情緒などが感じられる景観を守り育てていきます。	○	○	○	○	○
■ 千代田区が取り組んでいる、【 コミュニティ・商工振興 】に関する施策の達成度の評価は？						
17.	**地域力の向上を支援します** （説明）地域の絆を大切にするため、町会をはじめとする多様な団体の活動や連携を支援します。	○	○	○	○	○
18.	**豊富な観光資源を活用し、千代田の魅力を高めます** （説明）観光の推進を通じて、誰もが誇りを持てる、魅力あるまちづくりを推進します。	○	○	○	○	○
19.	**商店会（街）や中小企業を応援します** （説明）商店会（街）活性化に向けた自主的な取組みや商店街振興組合等への加入促進、中小企業の経営安定化を支援します。	○	○	○	○	○
20.	**安全で安心な消費生活を支援します** （説明）消費生活情報の効果的な提供、被害の未然防止、拡大防止及び解決に向けた施策に取り組みます。	○	○	○	○	○
■ 千代田区が取り組んでいる、【 文化芸術・スポーツ 】に関する施策の達成度の評価は？						
21.	**気軽に文化や芸術に親しめる環境の整備に取り組みます** （説明）文化芸術プランに基づき、文化芸術活動を支援し、学習や自己表現のできる場や交流の機会を提供していきます。	○	○	○	○	○
22.	**スポーツに親しめる環境づくりを進めます** （説明）生涯スポーツ社会の実現のため、学校の運動施設や他のスポーツ施設との連携を図っていきます。	○	○	○	○	○
23.	**豊かな歴史や文化資源を楽しみ、親しめる環境づくりに取り組みます** （説明）生涯にわたり身近な場所で貴重な文化資源に触れ、学び続けられるよう支援します。	○	○	○	○	○
■ 千代田区が取り組んでいる、【 平和・人権 】に関する施策の達成度の評価は？						
24.	**男女平等の理念が実現される社会をめざします** （説明）性別による役割分担意識の解消に努め、男女平等・人権尊重教育を推進するとともに、人権を侵害する行為の防止に努めます。	○	○	○	○	○
25.	**国際交流・協力や平和活動を推進します** （説明）区民や地域の自主的な国際交流・協力や平和活動を推進し、国籍や民族を問わない多文化共生の地域づくりを進めます。	○	○	○	○	○

4 個別施策に関するアンケート

回答対象者条件 ：全員

SA

ここからは、千代田区が取り組んでいる下記の施策についてお聞きします。

Q3 「千代田区内に通勤・通学されている方（昼間区民）への災害時支援体制を確立します」
平日の日中に大災害が発生した場合に予想される、多くの帰宅困難者への対応や支援体制を整備します。

あなたは、千代田区内に通勤・通学されている方（昼間区民）への災害時支援体制の確立に関し、
千代田区での地域活動・地域行事（例：防災訓練、防災講演会等）にどの程度参加したことがありますか？

○ 1. 定期的に参加している
○ 2. 定期的ではないが参加したことがある
○ 3. 参加したことがない

回答対象者条件 ：Q3=1-2回答者

FA

Q4 千代田区での地域活動・地域行事（例：防災訓練、防災講演会等）に、
「定期的に参加している」「定期的ではないが参加したことがある」とお答えになった方にお聞きします。

どのような活動に参加したことがありますか？
具体的にご記入ください。

回答対象者条件 ：Q3=3回答者

MA

Q5 千代田区での地域活動・地域行事（例：防災訓練、防災講演会等）に、
「参加したことがない」とお答えになった方にお聞きします。

千代田区での地域活動・地域行事（例：防災訓練、防災講演会等）に
参加したことがない理由をお選びください。（いくつでも）

□ 1. 地域活動・地域行事に関する情報が不足している
□ 2. 活動したい地域活動・地域行事が少ない又は存在しない
□ 3. 興味・関心がない
□ 4. 時間的に余裕がない
□ 5. その他（FA）

回答対象者条件 ：Q3=3回答者　　Q5／Q6の質問間の画面分岐（画面遷移）はなし。

SA

Q6 では、もしQ5でお選びになった理由が解消した場合は、千代田区での地域活動・地域行事に参加したいですか？

○ 1. 参加したい
○ 2. どちらかといえば参加したい
○ 3. どちらともいえない
○ 4. どちらかといえば参加したくない
○ 5. 参加したくない

回答対象者条件：全員

SA

Q7 あなたは、千代田区における、千代田区内に通勤・通学されている方（昼間区民）への
災害時支援体制の確立に関連のある下記の主な事務事業をご存知ですか？

		1 知っている	2 知らない
1.	**帰宅困難者対応訓練** 事業所と行政が互いに連携し、帰宅困難者の避難誘導訓練、被害情報・備蓄物資の提供訓練、混乱防止のための「あわてて帰宅しない」ことの普及啓発などを行う、帰宅困難者対応訓練を毎年1回実施します。	○	○
2.	**帰宅困難者対策地域協力会** 東京駅・有楽町駅周辺地区、富士見・飯田橋駅周辺地区、四ツ谷駅周辺地区、秋葉原駅周辺地区に、事業所・町会中心の防災組織として設置されている帰宅困難者対策地域協力会を側面から支援し、災害時には区と協力会が連携・協力して、帰宅困難者への支援を行います。	○	○
3.	**災害時における区内大学との連携** 災害時の帰宅困難者対策として、学生ボランティア派遣と大学施設の避難施設としての一時開放に協力してもらう体制を構築します。また、区からの装備品提供や、学生に対する災害救援ボランティア講座を開講し、災害救援に必要な知識・技能を養成します。	○	○
4.	**帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充** 帰宅困難者用の備蓄物資を整備し、給水袋、携帯食料、携帯トイレなどを配備します。	○	○
5.	**企業・事業所等の災害対策** 企業・事業所やマンション管理組合に対する備蓄物資購入費用の一部助成のほか、防災講演会、防災貢献者表彰による防災意識の普及啓発を図ります。	○	○

回答対象者条件：Q7で「知っている」と回答した項目のみ表示

SA

Q8 では、千代田区における、千代田区内に通勤・通学されている方（昼間区民）への
災害時支援体制の確立に関連のある下記の主な事務事業について、どのように感じていますか？

		1 評価できる	2 どちらかといえば評価できる	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば評価できない	5 評価できない
1.	**帰宅困難者対応訓練** 事業所と行政が互いに連携し、帰宅困難者の避難誘導訓練、被害情報・備蓄物資の提供訓練、混乱防止のための「あわてて帰宅しない」ことの普及啓発などを行う、帰宅困難者対応訓練を毎年1回実施します。	○	○	○	○	○
2.	**帰宅困難者対策地域協力会** 東京駅・有楽町駅周辺地区、富士見・飯田橋駅周辺地区、四ツ谷駅周辺地区、秋葉原駅周辺地区に、事業所・町会中心の防災組織として設置されている帰宅困難者対策地域協力会を側面から支援し、災害時には区と協力会が連携・協力して、帰宅困難者への支援を行います。	○	○	○	○	○
3.	**災害時における区内大学との連携** 災害時の帰宅困難者対策として、学生ボランティア派遣と大学施設の避難施設としての一時開放に協力してもらう体制を構築します。また、区からの装備品提供や、学生に対する災害救援ボランティア講座を開講し、災害救援に必要な知識・技能を養成します。	○	○	○	○	○
4.	**帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充** 帰宅困難者用の備蓄物資を整備し、給水袋、携帯食料、携帯トイレなどを配備します。	○	○	○	○	○
5.	**企業・事業所等の災害対策** 企業・事業所やマンション管理組合に対する備蓄物資購入費用の一部助成のほか、防災講演会、防災貢献者表彰による防災意識の普及啓発を図ります。	○	○	○	○	○

防災貢献者表彰による防災意識の普及啓発を図ります。

回答対象者条件：Q7で「知っている」と回答した項目のみ表示　　Q8／Q9の質問間の画面分岐（画面遷移）はなし。

FA

Q9 下記の主な事務事業について、Q8のように回答された具体的な理由があれば、ご記入ください。

1. **「帰宅困難者対応訓練」**の評価理由は？
2. **「帰宅困難者対策地域協力会」**の評価理由は？
3. **「災害時における区内大学との連携」**の評価理由は？
4. **「帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充」**の評価理由は？
5. **「企業・事業所等の災害対策」**の評価理由は？

回答対象者条件：全員

FA

千代田区では、千代田区内に通勤・通学されている方（昼間区民）への
災害時支援体制の確立のため、下記のような取り組みを行なっています。

帰宅困難者対応訓練
事業所と行政が互いに連携し、帰宅困難者の避難誘導訓練、被害情報・備蓄物資の提供訓練、混乱防止のための「あわてて帰宅しない」ことの普及啓発などを行う、帰宅困難者対応訓練を毎年1回実施します。

帰宅困難者対策地域協力会
東京駅・有楽町駅周辺地区、富士見・飯田橋駅周辺地区、四ツ谷駅周辺地区、秋葉原駅周辺地区に、
事業所・町会中心の防災組織として設置されている帰宅困難者対策地域協力会を側面から支援し、
災害時には区と協力会が連携・協力して、帰宅困難者への支援を行います。

Q10 災害時における区内大学との連携
災害時の帰宅困難者対策として、学生ボランティア派遣と大学施設の避難施設としての一時開放に協力してもらう体制を構築します。また、区からの装備品提供や、学生に対する災害救援ボランティア講座を開講し、
災害救援に必要な知識・技能を養成します。

帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充
帰宅困難者用の備蓄物資を整備し、給水袋、携帯食料、携帯トイレなどを配備します。

企業・事業所等の災害対策
企業・事業所やマンション管理組合に対する備蓄物資購入費用の一部助成のほか、防災講演会、
防災貢献者表彰による防災意識の普及啓発を図ります。

上記の取り組みの他に、どのような取り組みが必要だと思いますか？
具体的な取り組み方法があれば、ご記入ください。

回答対象者条件：全員

SA

Q11 平成23年3月11日の東日本大震災の際、あなたはどのような行動をとりましたか。

○ 1. 徒歩で帰宅した
○ 2. 車で帰宅した
○ 3. 電車で帰宅した
○ 4. バスで帰宅した
○ 5. 一晩、勤務先で待機した
○ 6. 避難所等の公共施設へ退避した　⇒（具体的な避難所等をご記入ください）（FA）
○ 7. 民間施設へ退避した　⇒（具体的な民間施設をご記入ください）（FA）
○ 8. その他（FA）

回答対象者条件：Q11=1-5、7-8回答者

MA

Q12 「避難所等の公共施設へ退避した」を選ばなかった方にお聞きします。
避難所等の公共施設へ退避しなかった理由をお選びください。（いくつでも）

□ 1. 避難所を知らなかった
□ 2. 避難所が近くになかった
□ 3. 満員のため使用できなかった
□ 4. プライバシーが気になる
□ 5. 避難所は地域住民のための場所だと思った
□ 6. その他（FA）

回答対象者条件：全員

SA

Q13 東日本大震災の体験を踏まえ、もし今後同様の震災が発生した場合、どのような行動をとりますか？

○ 1. 帰宅する
○ 2. 一晩、勤務先で待機する
○ 3. 避難所へ避難する
○ 4. その他（FA）

回答対象者条件：全員

MA

Q14 災害に対し、あなたの勤務先・学校はどのような準備・対策をとっていますか？

- □ 1. 備蓄物資の整備
- □ 2. 防災訓練の実施
- □ 3. 災害時の施設開放
- □ 4. その他（FA）

- □ 5. 分からない

回答対象者条件：全員

MA

Q15 東日本大震災の後、あなたの勤務先・学校で災害対策に関する行動で変化した点はありますか？（いくつでも）

- □ 1. 物資の備蓄を始めた、増やした
- □ 2. 防災訓練を行った
- □ 3. 災害時の施設を開放することとした
- □ 4. その他（FA）

- □ 5. 変化はなかった
- □ 6. 分からない

回答対象者条件：全員

MA

Q16 あなたは、千代田区で住み・働き・学ぶ上で、どのような災害を不安に思いますか？（いくつでも）

- □ 1. 地震
- □ 2. 暴風
- □ 3. 豪雨
- □ 4. 降雪
- □ 5. 洪水
- □ 6. 新型インフルエンザなどの感染症
- □ 7. テロ
- □ 8. その他（FA）

回答対象者条件：Q16で選んだ項目のみ表示

FA

Q17 では、千代田区で住み・働き・学ぶ上で、下記の災害を不安に思う理由があればご記入ください。

1. 地震
2. 暴風
3. 豪雨
4. 降雪
5. 洪水
6. 新型インフルエンザなどの感染症
7. テロ
8. その他

1 回答者の属性

回答対象者条件：全員

SA

麹町地域	
出張所名	管轄町丁名
麹町	九段の内一～三丁目、大手町一丁目1番～3番および5番～9番(3番4号気象庁敷地)、二丁目、内幸町一～二丁目、有楽町一～二丁目、隼町一～三丁目、永田町一～二丁目、隼町、平河町一～二丁目、麹町一～六丁目、紀尾井町、一番町～六番町、九段南二丁目(1番4号～35号)、皇居外苑、日比谷公園
富士見	千代田、北の丸公園、一ツ橋一丁目、大手町一丁目3番4号気象庁および4番、九段南一丁目・二丁目(1番4号～35号除く)・三～四丁目、九段北一～四丁目、富士見一～二丁目、飯田橋一～四丁目
神田地域	
出張所名	管轄町丁名
神保町	一ツ橋二丁目、神田神保町一～三丁目、三崎町一～三丁目、西神田一～三丁目、猿楽町一～二丁目、神田駿河台一丁目奇数番地・二丁目奇数番地
神田公園	神田錦町一～三丁目、神田小川町一～三丁目、神田美土代町、内神田一～三丁目、神田司町二丁目、神田多町二丁目、神田淡路町三丁目
万世橋	神田駿河台一丁目偶数番地・二丁目偶数番地・三～四丁目、神田須田町一～二丁目、神田岩本町一丁目、外神田一～六丁目
和泉橋	鍋横町一～二丁目、神田佐柴町、神田北乗物町、神田富山町、神田美倉町、若木町一～三丁目、神田西福田町、神田須田町二丁目、神田東松下町、神田東紺屋町、神田岩本町、東神田一～三丁目、神田和泉町、神田佐久間町一～四丁目、神田平河町、神田練塀町、神田花房町、神田佐久間河岸、神田練塀町、神田柳生町

Q18 あなたの勤務先・学校を管轄する出張所をお教えください。

- ○ 1. 麹町出張所
- ○ 2. 富士見出張所
- ○ 3. 神保町出張所
- ○ 4. 神田公園出張所
- ○ 5. 万世橋出張所
- ○ 6. 和泉橋出張所
- ○ 7. 分からない

アンケートは以上となります。
ご協力ありがとうございました。

引き続き以下のご説明文をご覧いただき、ご回答をお願いいたします。

「千代田区施策に関するインタビュー（区民会議）ご参加のお願い」

アンケートの実施機関である千代田区では、
施策に対する意見交換会「区民会議」を開催しており、
ご参加いただける方を募集しております。

【区民会議】とは、千代田区の遂行する事業について区民および通勤者通学者の
「意見の聴取の場」として、また「区の説明責任を果たし、区民参画を促す契機の場」として
千代田区が開催しているものです。

回答対象者条件：全員

SA

Q19 以下の事業について区と区民とで意見交換する座談会（区民会議）に参加を希望しますか。

○ 1.　7／28（土）　13時00分～15時30分　参加を希望する
○ 2.　希望しない

回答対象者条件：Q19=1回答者

MA

上記の座談会（区民会議）に先立ち、参加者向けに、対象事業について理解を深めていただくための「事前学習会」を開催します。
下記の日程のうち、現時点でおわかりの範囲でかまいませんので、参加可能な日・時間等すべて選択してください。
Q20 ※予定につきましては、時期が近づきましたら改めて確認いたします。

※事前学習会は、任意参加となりますが出来る限りご参加いただきたく存じます。
事前学習会に参加できなかった場合、資料送付により、事前にお目通しいただく事となります。

	1 午前	2 午後	3 夜	4 この日は参加できない
1.　7月20日（金）	□	□	□	□
2.　7月21日（土）	□	□	□	□
3.　7月22日（日）	□	□	□	□
4.　7月23日（月）	□	□	□	□
5.　7月24日（火）	□	□	□	□
6.　7月25日（水）	□	□	□	□
7.　7月26日（木）	□	□	□	□

回答対象者条件：Q19=1回答者

MA

Q21 参加に当たっての希望を教えてください。（いくつでも）

□ 1.　手話通訳が必要
□ 2.　車いすで参加
□ 3.　託児サービスの利用
□ 4.　その他

ご回答ありがとうございました。座談会（区民会議）一次当選者につきましては、
改めて7月上旬までに予定確認のアンケートを差し上げます。何卒よろしくお願いいたします。

2012.6

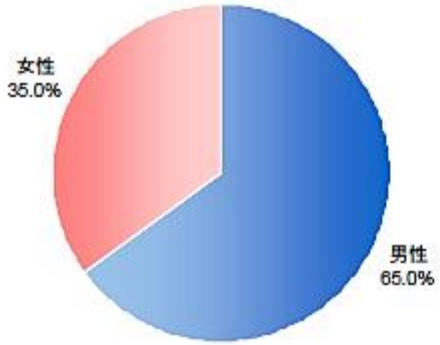
「千代田区昼間区民に関する調査」
結果報告書

調査概要

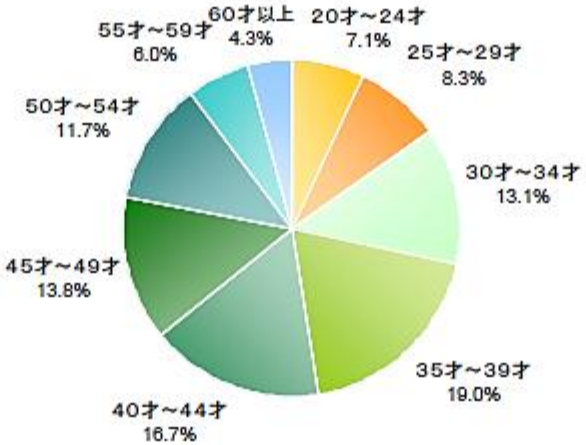
■ 調査目的	：	区民サービスをより一層向上させるため、昼間区民とされる「千代田区への通勤者・通学者」の視点を取り入れた「外部からの事務事業評価」を得ることを目的とする。
■ 調査対象	：	千代田区に通勤・通学している方（男女、20歳～79歳）
■ 調査地域	：	一都三県
■ 調査方法	：	インターネットリサーチ
■ 調査時期	：	【事前調査】2012年6月1日（金）～6月7日（木） 【本調査】2012年6月6日（水）～6月7日（木）
■ 有効回答数	：	【事前調査】80,000サンプル 【本調査】3,090サンプル
■ 調査実施機関	：	株式会社マクロミル

回答者のプロフィール　n=3,090

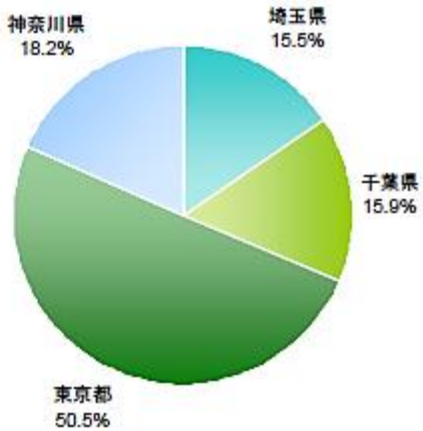
性別



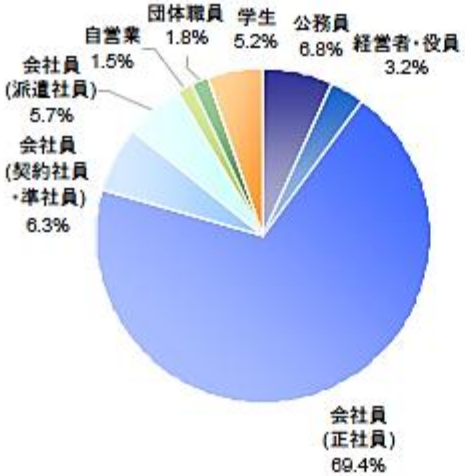
年齢



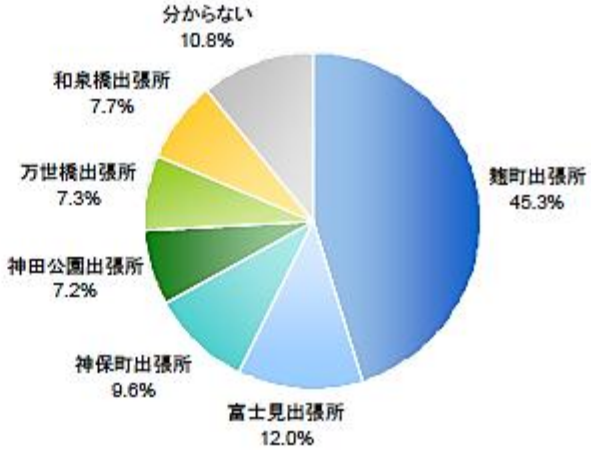
居住地



職業



勤務先・学校の管轄出張所

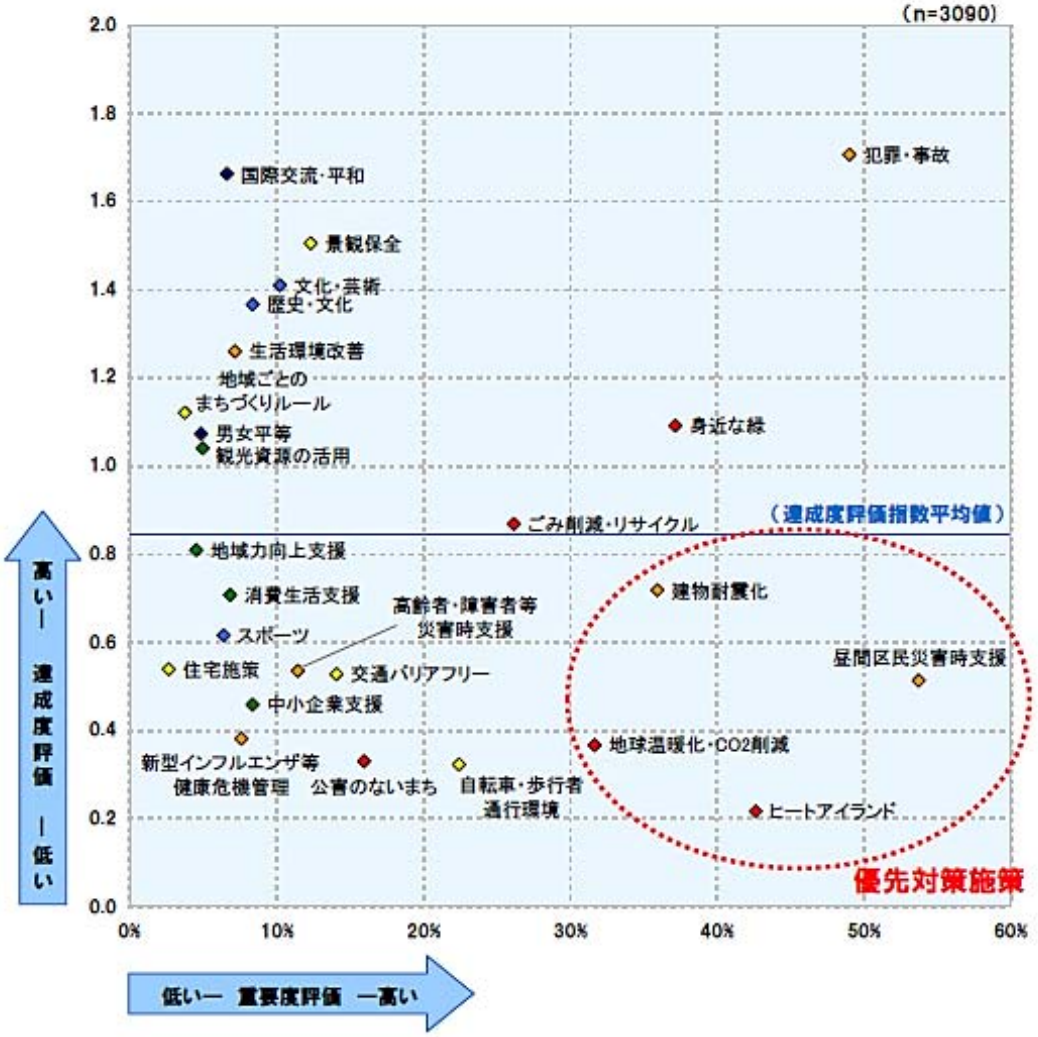


調査結果の要約

1　千代田区第3次基本計画施策評価

【凡例】

大分類	表示	選択肢
地球環境・生活環境	地球温暖化・CO2削減	地球温暖化対策として二酸化炭素（CO2）削減に取り組みます
	ヒートアイランド	ヒートアイランド対策を推進します
	身近な緑	身近な緑を増やし、うるおいのあるまちをめざします
	ごみ削減・リサイクル	ごみの減量やリサイクルを通じて資源循環型都市をめざします
	公害のないまち	騒音・振動などの公害がないまちをめざします
安全・安心	犯罪・事故	犯罪・事故などに対する危機管理体制を整備します
	生活環境改善	生活環境の改善に取り組みます
	高齢者・障害者等、災害時支援	高齢者、障害者など、災害時に支援を必要とする人たちの安心を支えます
	昼間区民災害時支援	千代田区内に通勤・通学されている方（昼間区民）への災害時支援体制を確立します
	建物耐震化	建物の耐震化に取り組みます
	新型インフルエンザ等健康危機管理	新型インフルエンザなど健康を脅かす事態に迅速に対応する態勢を整えます
景観・住宅・まちづくり	地域ごとのまちづくりルール	地域ごとのまちづくりのルールをつくります
	住宅施策	多様な暮らし方に対応する住宅施策に取り組みます
	交通バリアフリー	交通バリアフリーのまちづくりを推進します
	自転車・歩行者通行環境	自転車も歩行者も安心して利用できる環境を整備します
	景観保全	景観を守り育て、都心千代田の魅力を高めます
コミュニティ・商工業振興	地域力向上支援	地域力の向上を支援します
	観光資源の活用	豊富な観光資源を活用し、千代田の魅力を高めます
	中小企業支援	商店街（街）や中小企業を応援します
	消費生活支援	安全で安心な消費生活を支援します
文化芸術・スポーツ	文化・芸術	気軽に文化や芸術に親しめる環境の整備に取り組みます
	スポーツ	スポーツに親しめる環境づくりを進めます
	歴史・文化	豊かな歴史や文化資源を楽しみ、親しめる環境づくりに取り組みます
平和・人権	男女平等	男女平等の理念が実現される社会をめざします
	国際交流・平和	国際交流・協力や平和活動を推進します



達成度評価 ＝ 「達成されている」＋「どちらかといえば達成されている」 ／ 「達成されていない」＋「どちらかといえば達成されていない」

※1.0以上は「（どちらかといえば）達成している」と評価した人が「（どちらかといえば）達成していない」と評価した人より多い施策

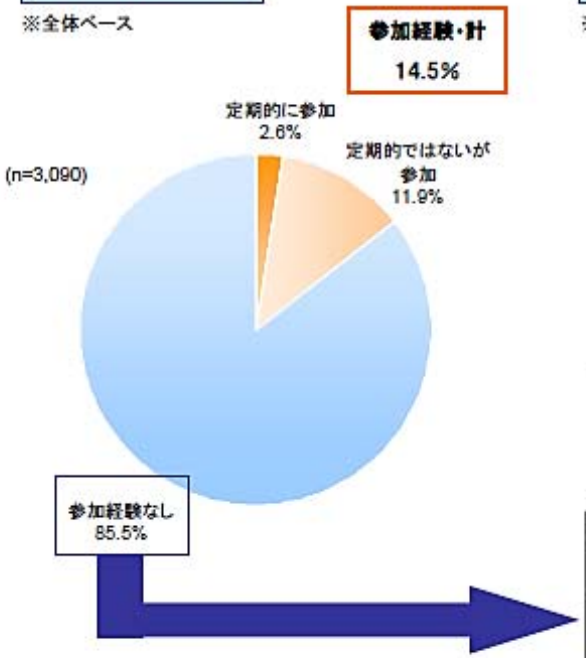
重要度評価 ＝「重要な施策」と回答した割合

2-1　昼間区民への災害時支援体制施策の評価（地域活動参加経験）

- 地域活動参加経験者は15%。
- 非参加者の非参加理由を見ると、「時間的余裕がない」、「活動・行事の情報不足」が挙げられている。女性30代以上では「活動・行事の情報不足」が、男女若年層では「興味・関心がない」が高い傾向。
- 非参加理由が解消された場合、35%の昼間区民が地域活動への参加意向を示している。
  非参加理由別では、「活動・行事の情報不足」や「活動したい地域活動・地域行事が少ない」の参加意向がほぼ半数と高い。また、属性別では、女性の参加意向が男性に比べ高く、神保町出張所での参加意向が4割見られる。

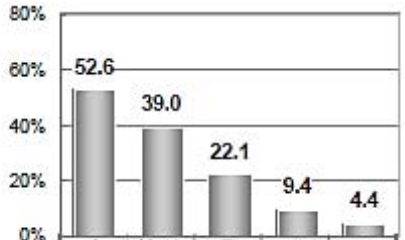
地域活動参加経験

※全体ベース



地域活動・地域行事への非参加理由

※非参加者ベース



n=30以上の場合
[比率の差]
全体+10ポイント以上
全体 +5ポイント以上
全体 -5ポイント以上
全体-10ポイント以上

		n=	時間的に余裕がない	地域活動・地域行事の情報不足	興味・関心がない	活動したい地域活動・地域行事が少ない	その他
全体		(2,643)	52.6	39.0	22.1	9.4	4.4
性別	男性	(1,702)	55.1	35.0	23.4	9.0	3.7
	女性	(941)	48.0	46.1	19.6	10.0	5.5
性年代別	男性_20代	(133)	54.9	30.1	37.6	12.0	1.5
	男性_30代	(460)	61.5	32.2	30.4	6.7	3.3
	男性_40代	(623)	54.1	36.3	20.9	8.7	4.2
	男性_50代以上	(486)	50.4	37.4	16.3	10.9	4.1
	女性_20代	(287)	52.3	42.5	29.3	13.2	5.6
	女性_30代	(401)	45.1	45.9	18.0	8.7	6.7
	女性_40代	(181)	43.6	53.0	11.0	8.8	3.3
	女性_50代以上	(72)	58.3	44.4	11.1	6.9	4.2

※全体値の降順でソート

非参加理由解決時の参加意向

※非参加者ベース

		n=	参加意向・計	参加非意向・計
全体		(2,643)	34.5	22.7
非参加理由別	時間に余裕がない	(1,390)	30.4	22.9
	活動の情報不足	(1,030)	49.6	11.5
	興味・関心がない	(583)	7.9	55.9
	活動したいものがない	(248)	49.6	11.3
	その他	(115)	46.1	10.4
性別	男性	(1,702)	32.4	23.3
	女性	(941)	38.4	21.7
性年代別	男性_20代	(133)	29.3	29.3
	男性_30代	(460)	28.9	29.3
	男性_40代	(623)	31.1	21.0
	男性_50代以上	(486)	38.3	18.9
	女性_20代	(287)	36.6	27.9
	女性_30代	(401)	37.4	21.7
	女性_40代	(181)	43.1	16.6
	女性_50代以上	(72)	38.9	9.7
出張所別	麹町出張所	(1,166)	36.3	21.7
	富士見出張所	(315)	34.6	26.3
	神保町出張所	(261)	40.2	19.9
	神田公園出張所	(196)	35.2	17.9
	万世橋出張所	(195)	36.4	23.1
	和泉橋出張所	(210)	27.6	19.5
	分からない	(300)	26.0	30.7

2-2 昼間区民への災害時支援体制施策の評価（参加した地域活動）

Q4 千代田区での地域活動・地域行事（例：防災訓練、防災講演会等）に、「定期的に参加している」「定期的ではないが参加したことがある」とお答えになった方にお聞きします。
どのような活動に参加したことがありますか？具体的にご記入ください。

防災訓練 250件程度

- 4/1防災訓練による携帯を使った連絡（男性_38才）
- 会社が行っている防災訓練には毎回参加している。（女性_62才）
- 事業所が実施する防災訓練に参加しました。丸の内消防署による講評もあり。（男性_43才）
- 首都直下型大地震等を想定とした防災訓練のイベント（男性_30才）
- 大学の決まりもあるので防災訓練には何度か出たことがある（女性_21才）
- オフィスビルで行われる防災訓練。耐震車？に乗ったり、煙の中を体験する物などに参加（女性_41才）
- ビルの防災訓練、東日本大震災後に開催された講演会（男性_45才）
- 会社のメンバーみんなで火災、地震対策の訓練に参加しました。（女性_35才）
- 勤務先のビルで実施している防災訓練に例年参加している。（男性_44才）
- 西新橋二丁目と霞が関一丁目の町会主催の防災訓練（男性_63才）
- 毎年、勤務先のビル会社に来て防災訓練・公演をしてくださる防災隊員の方々がいて、そのようなイベントに不定期に（ほぼ毎年）参加しています。（女性_27才）

避難訓練 90件程度

- 会社で定期的に行われている避難訓練に参加している。また、災害時の避難場所や連絡先の記載されたカードの必携などに取り組んでいる。（女性_45才）
- 集団避難訓練（女性_31才）
- 大学での避難訓練（男性_22才）
- 地震・火災を想定した避難訓練（男性_36才）
- 避難訓練で指定避難場所まで行った（男性_46才）
- 学校勤務しているので、避難訓練などを定期的に行っており、その手伝いなどをしている。（女性_25才）
- 会社が主催し消防局が協力してくれた避難訓練（男性_38才）
- 会社における避難訓練の際に、会社関係者が招聘した近隣消防の方の話を聞いている。（男性_36才）
- 緊急時避難訓練（火事が発生しフロアごとに避難）（男性_53才）
- 災害時を想定した避難訓練（男性_34才）

消防（火災）訓練 30件程度

- 火災訓練、救護訓練（男性_48才）
- 会社で行った消防車などが出動した訓練。（女性_39才）
- 会社のあるエリアでの消防訓練。消防署の方からAEDの操作を教えていただきました。（女性_44才）
- 丸の内消防団活動（男性_54才）
- 消火器の訓練（男性_24才）
- 勤務先のビルにて年2回行われる定期的な消防訓練と、不定期に行われる防火・防災管理協議会に参加している。（女性_39才）

清掃活動 20件程度

- クリーンアップボランティア（女性_29才）
- ポス捨て禁止のクリーンアップ行動（男性_48才）
- 会社と千代田区との連帯行事として、ゴミ拾いに参加したことがあります。（女性_39才）
- 地域清掃活動、神田川浄化のとりくみ（男性_43才）
- 道路清掃（男性_39才）
- 年2回の一斉清掃（男性_59才）

防災講習 15件程度

- イベント内での防災講演会に参加しました。（女性_33才）
- ビルの防災管理者としての会合で、丸の内消防署からの担当者に寄る講演を聞いたこと（男性_43才）
- 職場の指示で、九段会館での防災セミナーに参加したことがある（女性_30才）
- 某政党主催の防災講演に参加。（男性_43才）
- 地域のビル合同の防災訓練、救急救命講習会（女性_51才）

帰宅困難時の対策 10件程度

- 帰宅困難者の訓練に参加したことがある（男性_55才）
- 帰宅者難民対策のようなもので秋葉原から四ツ谷まで歩いた。（女性_40才）
- 今年3月の「千代田区帰宅困難者対応訓練」に参加しました。（女性_32才）
- 東日本大震災後、東京駅で泊まる体験をした。帰宅難民対策。（男性_36才）

イベント 10件程度

- 自治会活動、祭り行事。（男性_39才）
- 千代田区出身でもあるので、地域の行事等に参加しました。（男性_34才）
- 地域の古本市・カレー祭りに参加（女性_29才）

講演会・セミナー 10件程度

- 丸の内、大手町地区のセミナー（男性_56才）
- 秋葉原（UDX）で行われた国際交流シンポジウムに臨んだ事があった。（男性_59才）
- 二酸化炭素削減にかかるシンポジウム（男性_44才）

防犯・パトロール 5件程度

- 丸の内署のパトロール（男性_72才）
- 交通安全パトロール（男性_59才）
- 地域の防犯訓練に千代田区に住む社宅住民の一人として参加しました。（男性_39才）

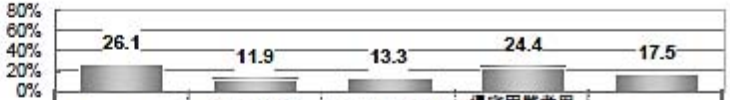
3-1 昼間区民への災害時支援体制施策の評価（事務事業の評価）

- 事務事業の認知を見ると、「帰宅困難者対応訓練」、「帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充」が2割を占めるが、全体的に認知は低い。地域活動参加経験者では各事業の認知が高く、特に「帰宅困難者対応訓練」、「帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充」、「企業・事業所等の災害対策」は認知が半数を占める。
- 各事務事業に対する評価はいずれも7割を超え、概ね高い評価を得ている。女性30代では全ての事業が8割を超え高評価。神保町出張所では、「企業・事業所等の災害対策」が83％と高い。

事務事業の認知状況

※全体ベース

【知っている】



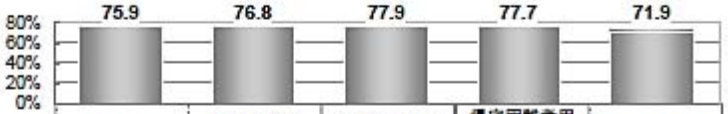
n=30以上の場合
[比率の差]
全体+10ポイント以上
全体 +5ポイント以上
全体 -5ポイント以上
全体-10ポイント以上

		n=	帰宅困難者対応訓練	帰宅困難者対策地域協力会	災害時における区内大学との連携	帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充	企業・事業所等の災害対策
全体		(3,090)	26.1	11.9	13.3	24.4	17.5
性別	男性	(2,007)	28.3	12.5	13.7	24.5	18.7
	女性	(1,083)	22.3	10.8	12.7	24.3	15.1
性年代別	男性 20代	(155)	29.0	12.9	28.4	23.9	21.3
	男性 30代	(534)	22.1	8.6	9.6	18.7	11.2
	男性 40代	(726)	28.8	12.1	12.1	24.8	18.7
	男性 50代以上	(592)	32.9	16.2	15.5	29.6	24.8
	女性 20代	(320)	16.6	7.5	16.9	20.6	10.3
	女性 30代	(458)	22.1	10.5	9.6	23.6	14.6
	女性 40代	(216)	28.2	11.6	11.6	27.3	19.0
	女性 50代以上	(89)	29.2	22.5	15.7	33.7	25.8
職業別	公務員	(209)	31.6	15.3	15.8	25.4	18.2
	その他有職者	(2,720)	26.1	11.8	11.7	24.6	17.8
	学生	(161)	19.9	8.1	37.9	21.1	10.6
出張所別	麹町出張所	(1,400)	29.3	13.5	13.2	28.1	21.0
	富士見出張所	(371)	25.3	10.0	10.8	25.9	15.1
	神保町出張所	(297)	22.6	9.4	22.9	21.9	15.5
	神田公園出張所	(223)	23.8	11.2	12.1	21.5	13.9
	万世橋出張所	(227)	21.6	12.3	15.0	22.5	16.7
	和泉橋出張所	(239)	18.4	6.7	6.7	16.7	11.3
	分からない	(333)	27.3	13.2	12.6	18.6	14.4
地域活動別	参加経験あり	(447)	57.7	34.0	31.3	53.5	46.8
	参加経験なし	(2,643)	20.8	8.1	10.3	19.5	12.5

事務事業の評価

※各事務事業認知者ベース（n数はP36参照）

【評価・計】



		帰宅困難者対応訓練	帰宅困難者対策地域協力会	災害時における区内大学との連携	帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充	企業・事業所等の災害対策
全体		75.9	76.8	77.9	77.7	71.9
性別	男性	75.5	75.6	73.8	76.4	68.4
	女性	76.8	79.5	86.1	80.2	79.9
性年代別	男性 20代	66.7	65.0	72.7	75.7	69.7
	男性 30代	76.3	73.9	70.6	76.0	65.0
	男性 40代	73.7	72.7	67.0	71.7	68.4
	男性 50代以上	79.0	81.3	82.6	81.7	69.4
	女性 20代	77.4	79.2	88.9	81.8	84.8
	女性 30代	82.2	87.5	86.4	83.3	82.1
	女性 40代	70.5	72.0	88.0	79.7	78.0
	女性 50代以上	69.2	70.0	71.4	66.7	69.6
職業別	公務員	81.8	68.8	66.7	71.7	68.4
	その他有職者	75.5	78.0	77.4	78.0	72.0
	学生	71.9	69.2	86.9	82.4	76.5
出張所別	麹町出張所	80.2	77.2	80.5	81.9	75.5
	富士見出張所	71.3	73.0	62.5	79.2	71.4
	神保町出張所	77.6	75.0	85.3	73.8	82.6
	神田公園出張所	66.0	80.0	74.1	62.5	51.6
	万世橋出張所	83.7	78.6	82.4	72.5	68.4
	和泉橋出張所	65.9	81.3	87.5	77.5	70.4
	分からない	65.9	75.0	64.3	69.4	56.3
地域活動別	参加経験あり	78.3	78.9	77.9	77.8	75.1
	参加経験なし	74.7	75.3	77.9	77.7	69.8

3-2 昼間区民への災害時支援体制施策の評価（事務事業の評価理由）

Q9 下記の主な事務事業について、Q8のように回答された具体的な理由があれば、ご記入ください。

帰宅困難者対応訓練

- マニュアルだけでなく、実際に訓練することで有事の際に対応しやすくなるため。（男性_21才）
- いつ災害が発生するか不明なため、訓練をして少しでも平常心で対応できるようにしていること。（男性_26才）
- いつかは発生する事態なので、訓練は必要だと思う。こういうことは行政が音頭を取らないとできないので、良いことだと思う。（男性_38才）
- 実際に体験しないと分からない問題があぶりだされてくると思うので。（男性_40才）
- 千代田区はもっとも企業が集中しているところであり、整備は必須であると感じた。（男性_45才）
- 安全な場所で待機することで無駄な混乱を避けることができると思うから。（男性_49才）
- 昨年の3.11の際に、やはり、多くの社員が会社に泊まったり、長時間の徒歩帰宅を余儀なくされたため。（男性_49才）
- 東日本大震災を受けての対応として適切と考えるから。（男性_51才）
- 普段から行っておかないと、いざというときに対応できないから。特にオフィス街は働いている人数も多く、定期的な訓練が必要だと思う。（女性_30才）
- 日頃から有事にどう対応するか、考える良い機会になると思うから。（女性_31才）
- 昨年の大震災の際、街中が人で溢れかえっていたのでもっと適切な行動ができたのではないかと思うので。（女性_35才）
- 具体的な訓練があると心構えも変わってくるし、訓練の内容を知っておくだけでも危機管理の意識も違うのでとても意義のある事だと思ったから。（女性_36才）
- 昼間人口が特に多い中で、区としては重要な取り組みだと思う。（女性_38才）
- 実際参加してみて今後の災害時に役に立つと痛感した。（女性_40才）
- 今回の震災で実際に東京駅から自宅のある埼玉まで約20キロの道のりを徒歩で帰宅したことで、条件が整わないと帰宅ができないことをあらためて実感したから。（女性_45才）
- ほとんどが帰宅困難者となる現在、この問題が一番重要だと思うから。（女性_46才）
- 時間が経つと恐怖心も消えてくるのでいざという時の心づもりは必須。それを促す定期的な試みは評価出来ると思いました。（女性_53才）
- 去年の震災で歩いて帰るのは無理だと悟った。（男性_29才）
- 地域での取り組みが大事だと震災で感じた。（男性_31才）
- 実際に帰宅困難になった自分にとって、この対策は非常に重要であり、推進していただきたい事柄だから。（男性_42才）
- いざというときのために訓練はあったほうが良いので。（男性_45才）
- 訓練により知らなかったことを知ることが出来た。（男性_48才）
- こういうものは市民是認で取り組まないと意味がないから大々的にやってほしい。（女性_21才）
- 震災のとき、予備知識がなくてパニック状態だったので訓練が有効だと思った。（女性_31才）
- 帰宅困難者が多数出る地域であるため、混乱を避けるためにこのような訓練は必要であると思う。（女性_38才）
- いざというときに気持ちの上でおちついて行動できるようになると思うので。（女性_41才）
- 昨年の震災の際に、実際に徒歩で帰宅したが、歩道も車道にも人があふれていた。無理して帰宅することはないと感じていたから。（女性_42才）

帰宅困難者対策地域協力会

- 千代田区民以外の人も支援してもらえることで、通勤・通学者も安心できるため。（男性_21才）
- 帰宅困難者の対応は地域の支援が欠かせなく、協力会を作るのはそれを助けると思うから。（男性_38才）
- 具体的なエリアを設け、協議している点を評価。（男性_51才）
- 各企業や省庁が集中しており、混乱が予想されるため、地域の協力は非常に大事なこと。（男性_52才）
- 組織的に災害対策や被災者支援の意識改革を図っていただけるのは大いに評価できる。（男性_59才）
- 区と協力会では得意分野が違うと思うので、それぞれの良いところを活かせる支援だと思うから。（女性_37才）
- 千代田区は、大量の帰宅困難者が予想される中で行政のみならず、地元の協力は必須だと思う。（女性_38才）
- 集まりに参加して協力し合っていることに痛感した。トイレなど貸し出してくれる店舗などにラベルなど貼ってあり良いと思います。（女性_40才）
- 帰宅困難者対策に、事業者や町会の協力は有効だと思うので。（男性_34才）
- 受け入れ施設は多いほど安心。（男性_46才）
- 交通インフラの回復までの間の支援は必要、重要な取り組み。（男性_55才）
- 町会レベルでこのような対策を検討する部会があることは、勤めに来ている人にとって心強いことである。（女性_38才）
- もしもの時のよりどころとして心強い。区内移住者のみならず、通勤者にも優しい街づくりの様子が感じられホッとする。（女性_48才）

災害時における区内大学との連携

- 帰宅困難者にとって最も欠かせないもの、やはり雨風が凌げるところは必要です。実際に今回の震災では助かりました。（男性_37才）
- スペースとしても、マンパワーとしても期待できるものだと思います。（男性_51才）
- 自分が通学している地域は大学が密集しており、上記のような体制は非常に効果的であると考えるから。（女性_21才）
- 区内には大学が多数あり、災害時にとても規模の大きい避難施設になると思うから。（女性_27才）
- 千代田区内には大学が多く、公立の小中学校に比べ認知度や設備の充実度が高いため、いざという時に頼りになる存在だと思う。（女性_38才）
- とにかく季節を問わず屋根のあるところにいられること、またトイレの確保ができていることで安心するから、大人数収容可能な大学との連携はありがたいと思う。（女性_45才）
- 若くて機動性のある学生ボランティアを派遣するということと、敷地的に余裕のある大学の積極活用。（女性_46才）
- 判断力では未だ未熟な学生には大学主導での知識や技能の提供は非常に有益であるから。（男性_22才）
- 大学は受入キャパが大きいし、多くの人が知る場所にあるから。（男性_38才）
- 災害時の大学生などの若い力、大学などの施設は必要。（男性_69才）
- 自分の所属している大学が実施していたため、実感できたから。（女性_24才）
- 近くに多く大学があるので、災害時に受け入れが可能と知っているだけで、だいぶ安心できているから。（女性_31才）

3-3 昼間区民への災害時支援体制施策の評価（事務事業の評価理由）

Q9 下記の主な事務事業について、Q8のように回答された具体的な理由があれば、ご記入ください。

帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充

- 道路が分断されている中での物資供給は困難であるので、ある程度の備蓄は命綱であるから。（男性_22才）
- 東日本大震災の際、コンビニ等から水や食品がほとんど無くなったことから、備蓄は極めて重要と考えられる。（男性_35才）
- 本件については、千代田区に限らず都心部の行政に最低限求められるものだと思うので、「あって当然」というレベル。（男性_38才）
- 東京の真ん中にある以上、帰れない人間が多数発生するケースが考えられるので、この対応も評価できる。（男性_39才）
- ライフラインが機能しない場合に対して必要である。（男性_42才）
- 会社において備蓄物資を用意していたとしても、会社を出てしまうとそのような物資を得づらい状況になってしまうから。（男性_50才）
- オフィス街ということもあり、災害発生時にパニックにならないように物資を確保してもらえると安心。（女性_29才）
- 震災の時に、帰宅困難になり、コンビニも売り切れでとても困ったので充実させてほしい。（女性_29才）
- 住んでいない人は備蓄物資を自発的に準備しておくことが容易ではないから。（女性_31才）
- それがあるのとないのとでは、帰宅困難者の焦りがだいぶ違うと思う。冷静な判断がしやすくなると思うから。（女性_37才）
- 備蓄品は行政・企業双方が検討すべきだから。（男性_36才）

企業・事業所等の災害対策

- 国が行うだけでなく、法人も対策を立てることにより、災害から二重でカバーできるから。（男性_22才）
- 費用の助成は助かるし、講演会や表彰は防災意識が高まると思うから。（男性_47才）
- 備蓄物資購入費用の一部助成が各企業や事務所の防災意識向上に繋がるから。（男性_50才）
- 今はまだ大震災の記憶が生々しいが、企業任せでは今後危機意識が薄れていく危険性があるから。（女性_31才）
- 備えは物質だけじゃなく人の心構えも大切だと思うから。（女性_37才）
- 震災があった時、働いているオフィスビルに水や食料、毛布が備蓄してあり、すぐに配布され、とても役立った。これらの基盤になっている物だと思うから。（女性_41才）
- 自宅以外の場所で災害に遭ったことを想定し、偶然居合わせた人にも提供できるくらいの物資の準備があったほうがいいと思う。（女性_45才）
- 1日のうち職場にいる時間がかなりの割合となるので、職場での災害対策強化はとても安心する。（男性_29才）
- 企業だけでは限界があるので地域と連携しないと効果が出ないと思う。（男性_42才）
- 区の支援があるとないとでは、企業の意識が大きく異なると思うため。（女性_35才）
- それぞれの企業などに対する支援や啓もうを進めることによって、混乱を少なくしていくことが可能であると考えるから。（女性_38才）
- 区が率先して行動してくれることはありがたいし、良い啓発になると思うので。（女性_48才）

帰宅困難者対応訓練（非評価者の意見）

- 年複数回、しかも大規模な訓練にしなければ、効果は限られてしまうと思いますし、実際に効果のでるような訓練の実施は困難だと思う為。（男性_51才）
- 周知が不足してるから。（女性_27才）
- 去年の震災時、効果が出ていたとは思えないから。（男性_25才）
- 東日本大震災のときJRが構内を閉鎖したため訓練と違っていた。（男性_42才）

帰宅困難者対策地域協力会（非評価者の意見）

- 情報が共有できていない。（男性_28才）
- どのような支援なのか具体的にイメージできない。（男性_38才）
- 3.11の時に何もなかった。（女性_52才）
- 交通機関との連携が取れているか疑問を感じる。（男性_42才）

災害時における区内大学との連携（非評価者の意見）

- 大学院生だがとくにこういう話を聞かないから。（男性_22才）
- 実際の災害時にどれだけのボランティアが動員できるか疑問。（男性_38才）
- 学生だって災害時は帰りたいだろうから、わざわざボランティアさせなくていいと思う。場所の提供、および教職員が活動すべき。（女性_31才）
- 連携がとれているとは思えないので。（女性_34才）

帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充（非評価者の意見）

- 必要だと思われる分だけあるのかわからないし、必要と思われる数をどのように算出しているのかもわからないので。（男性_37才）
- 取り組みがあるのは知っているが、量的には圧倒的に不足しているのではないか。（男性_44才）
- 周知が不足している（どこにあるかを具体的に知らない）。（女性_27才）
- 実際に必要なときに迅速に配布してもらえるのか不安が残るから。（女性_35才）

企業・事業所等の災害対策（非評価者の意見）

- あまり実施内容が伝わってこない。（男性_25才）
- 各企業及び事業所で働く人々への認知、浸透がなされていないと感じるため。（男性_31才）
- 防災担当者以外に、制度自体あまり周知されていないのでは。（男性_43才）
- 制度の利用法がわからない。（男性_47才）
- なにをしているのかわからない。（女性_41才）

4-1　昼間区民への災害時支援体制施策として期待すること（既存施策の強化）

Q10　上記の取り組みの他に、どのような取り組みが必要だと思いますか？ 具体的な取り組み方法があれば、ご記入ください。

「帰宅困難者対応訓練」の強化

- 千代田区や千代田区内の大学や企業のみならず、他の市区町村や鉄道会社、自衛隊、消防、警察なども巻き込んで、大規模な訓練を行う必要があると思う。（男性_29才）
- 災害発生時における怪我の応急措置の対応法等の講習会の実施。（男性_35才）
- 取組自体は構わないが、防災訓練の義務化などの強制力がなければ意味がない。（男性_40才）
- なかなか訓練には参加出来ないので、ネット上で『仮想訓練』出来ればいいです。（男性_44才）
- 帰宅困難者だけでなく、災害時の緊急避難訓練をもっと行うべき。（男性_44才）
- 継続的に行う事が重要。訓練や備蓄物資の定期的なチェックを行政に対し期待しています。（男性_49才）
- 訓練が本番でもちゃんと機能する様にしっかりと行う必要があると思います。どちらかと言えば、強制的にでもほとんどの関係者には受けさせる必要があるのではないかと思います。（男性_53才）
- 千代田区には、たくさんの職場があるのに避難訓練が年1回というのは大丈夫なのか不安だ。（女性_24才）
- 集団帰宅を行えるような支援や訓練があってもいいと思う。（女性_30才）
- アナウンスや放送などによるメッセージ伝達の訓練も必要だと思います（女性_38才）
- 訓練、研修、説明会参加を義務付けた方が良い。小規模企業は大概対策を怠るので、防げるはずの被害が出ると思うので（女性_46才）

「企業・事業所等の災害対策」の強化

- 企業ごとの取り組みだけでなく、企業同士の結びつきで相互に補填しあう取り組みがあってもいいのでは。（男性_34才）
- 企業・事業所などに災害時の物資貯蔵を義務付けるぐらいの強制力が必要だと思う。条例化してもいい。（男性_38才）
- 会社に対して災害時には早く帰宅、避難できるように指導してほしい。3/11の時は定時まで帰れなかった（男性_39才）
- 企業が従業員に時間を与え、防災に対する取り組みに参加するように促すこと。（男性_45才）
- 企業毎もしくはビル毎の防災総合訓練、人的資産バンク（資格・技能）と活用（男性_63才）
- 中小企業が行う帰宅困難者対策の指針作成や金銭的な支援が必要。中小企業は大企業と違ってノウハウも無く、対策が必要なことは分かっていても具体的に何をすればいいかが分からない。また対策のために割ける人員・費用も少ないため。（女性_31才）
- 企業に対する緊急災害パックの配布、常備の義務化（女性_32才）
- 中小企業の社員が、災害前（大雨等）に、早期の帰宅を勧告する際に、自己判断ではなく、業務命令で帰るように中小企業に対して勧告する（女性_32才）
- 積極的に参加できる環境を整えて欲しい。今であれば、企業が希望者に参加を募って勤務時間中に参加させるなどの配慮があると思う。しかし、私の勤め先ではそういった呼びかけや話し組などもないので企業に徹底して欲しい。（女性_37才）
- 社内に避難場所へ行くのか、会社にとどまるのか判断ができない担当者がいる。こういう人たち向けの講習をして欲しい。（女性_44才）

「帰宅困難者対策地域協力会」の強化

- 地域住民・会社といった組織・枠組みをこえた交流が必要だと考えます。（男性_36才）
- 周辺の飲食店からの炊き出しなど（男性_39才）
- 災害時には区内の商店などが被災者に可能な分の物資を供給し、供給した分だけ千代田区が各商店に対して保証をする。（男性_40才）
- 町会単位での災害対策（男性_43才）
- 一般区民の協力が得られる体制づくり（男性_58才）
- 住民の意見を取り入れて、共に協力していく体制作りをすること。（女性_21才）
- コンビニやスーパーなどとの連携（女性_43才）
- 帰宅困難者が発生したときに様々な情報が提供できるような大型ディスプレイなどを備えてほしいと思う（男性_35才）
- 帰宅困難者の中での役割分担、チーム作りを円滑に行える準備。全ての人が守られる側に立つのではなく、できることを潤滑に行えるように指揮する、まとめることができるようになる体系づくり。（男性_38才）
- 帰宅困難者対策として大学施設だけではなく他の多くの施設の開放も必要。災害の状況などのアナウンスも必要（男性_42才）
- どうしても帰宅しなければならない人を選別する基準作りと、その人の帰宅方法（男性_51才）
- 交通インフラが壊滅的な被害を受けた場合に歩いて帰るには遠い人々に放置自転車等を貸し出すような取組。（男性_51才）
- 帰宅困難者に対し、行政だけではなく、区内のホテルなど民間宿泊設備の全面協力を得る。（男性_59才）
- 帰宅難民が出たときのために、情報や連絡が途切れないように情報センターなどのような施設が必要になると思います。（女性_21才）
- 帰宅困難になって公共の場で寝泊りすることになった場合の安全の確保（女性_31才）
- より早く帰宅が完了できるようなインフラの整備と災害後の早急な対応（女性_35才）
- 災害発生時に、帰宅せざるを得ない人たちを支援する取り組み。例えば、同じ方面の人たちを集団化するのをスムーズになるようサポートする等。（女性_36才）

「帰宅困難者用備蓄倉庫・備蓄物資の整備拡充」の強化

- 各個人でも最低限の備蓄を促す活動。自治体や企業だけでは限界があると思われるため。（男性_39才）
- 防災グッズが配布されると良い（男性_49才）
- 物資等の配給方法等の整理（男性_51才）
- 長期的な支援ができるのか不安があるので、数値を示して欲しい（男性_53才）
- 各駅への備蓄物資の供給（男性_54才）
- 備蓄物資の有効期限の管理の徹底。期限が切れそうなものは格安で販売する（男性_56才）
- 備蓄は確かに必要だが、必要とならなかった時のための対応策も考えておくべき（男性_60才）
- それぞれの避難場所に昼間の人口分の食料・飲料水などが確保されること（女性_45才）

4-2 昼間区民への災害時支援体制施策として期待すること（新たな取り組み）

Q10 上記の取り組みの他に、どのような取り組みが必要だと思いますか？ 具体的な取り組み方法があれば、ご記入ください。

取り組みの周知

- 自分だけは大丈夫、と思わないような、個人への意識向上キャンペーンを自治体としてした方が良いと思う。（男性_35才）
- 上記のような取り組みが、千代田区で勤務している人に伝わるよう、会社にビラを配るなどしてほしい。ネットでの公開は3.11の状況を考えると不安。（男性_39才）
- その他（観光客等）千代田区に来られる方へのアピール活動が必要かと（男性_42才）
- もっと広報活動をしてほしい。大企業ばかりにお知らせが行っており、古い雑居ビルは完全に無視されていると感じる。地域的な活動はいつどこで行われているのか全く解らない。（男性_50才）
- ポイントをまとめた災害時ハンドブック等の配布（男性_51才）
- 具体的な施設名を公開し、千代田区のホームページ（PC、携帯サイト）を充実させて欲しい。（男性_54才）
- 実際の場所や内容の地図、パンフレットが欲しい。何処で、どんな危険度かの具体例などの説明（男性_60才）
- 怠らないPR活動を続ける。老人、子供、病人など弱者救済のための、マニュアルを整備しておくことが抜けている。（男性_63才）
- このような取り組みがあっても、その事自体を知らない人が多いと思うので、各企業や駅構内にパンフレットを設置したりポスターを貼ったりして、周知することが必要だと思う。（女性_25才）
- 紙での配布や、企業に勤めている人向けのメールマガジン等を作る。（女性_25才）
- これらの取り組みがあることを、帰宅困難者になる可能性がある人へ周知すること（女性_26才）
- 火災になりやすいエリアや災害時に通らない方がいい道などを記したマップを配布したり、インターネットで公開する（女性_29才）
- 企業が多いので、区外の人が一時訪問だったり、短期・単発で派遣されてくる人もいると思う。そういった人々へも情報拡散・フォローをしてほしい。（女性_33才）
- 取り組み内容をエリア内に勤務している会社員・学生、その保護者に周知すること（女性_34才）
- どれひとつ知らないので、まずは周知徹底だと思う。（女性_43才）
- いかに人々の関心を引くかが一番の問題だ（女性_47才）
- PR活動、いい取り組みなのに知られていないし、参加方法がわからないから。（女性_48才）

既出項目の徹底、充実

- 取り組みの予定としては十分すぎるぐらい確立されていると思います。ですので、実際に災害が起きたときに、その取り組みの効力を最大限発揮できるように、より具体的に、実践的に努めていただけると日々の通勤も今まで以上に安心してできます。（男性_22才）
- 構想よりも小さなことから実現していくことが大事だと思います（男性_26才）
- 種類を広げず、上記を必達することが優先だと思う。（男性_41才）
- 新しく考えるより現時点で実施中の施策が無駄にならないように取り組んでほしい。（男性_41才）
- リアリティを持った取り組みをしてほしい（男性_43才）
- 取り組み・施策としては十分だと思います。進捗・達成度の低い分野のスピードを上げて下さい。（男性_45才）

建築、道路、耐震性の整備

- 建物そのものの強度向上への支援（男性_28才）
- 電線の地中化、橋脚・道路の耐震化を促進し、交通が麻痺しないようにする（男性_30才）
- 食料、水、トイレの確保はもちろんだが、ビルの窓ガラスの落下および飛散、雑居ビルや飲食店などの看板の落下・飛散も考えられる。できれば飛散防止フィルムの義務付けや看板の取り付け具合の確認など、低コストでできるものを徹底しないと帰宅困難者だけでなく、けが人が増えてしまうと思う。（男性_44才）
- 歩道の安全性確保（障害物の撤去等）（男性_51才）
- 私の通っている学校は耐震性の問題があり帰宅困難者の受け入れなど一切行えず震災後しばらく校舎への立ち入りもできなかった、ということがあったので、地域に関わる企業団体がもっと個々に災害対策への設備投資などを積極的に行うべきだと思います。災害時の対策がしっかりしていても実際使える場所が少なければ意味がないと思います。（女性_22才）
- 千代田区はビルが多いのでビルのメンテナンスおよびビルの耐震強化（女性_28才）
- 古い建物が多いので、建物の様子や災害時の建物内の避難ルート等、適しているかチェックを行ったほうが良い（女性_33才）

案内標識の設置

- 道路標識や道路(地図)案内板に避難場所・避難経路・危険地区等を分かりやすく表示しておく。無意識のうちに目に入るようにしておけば、いざという時に効果を発揮する。（男性_25才）
- 災害時にどこの施設でどういう支援を受けられるかを、わかりやすくアナログな方法で示してほしい。（マップや店先・入口の表示など）（男性_37才）
- 街中の案内板。大震災のとき、徒歩で帰宅したが道が分からなかった（男性_38才）
- 該当施設での表示がないので、どの施設が該当しているのか分からない。（男性_43才）
- 災害時に対応した各種標識の設置（男性_65才）
- 災害時、誰でもわかるように避難場所の案内地図などを設置する。（女性_21才）
- 主要交差点や防災拠点等に徒歩帰宅者のための地図看板の設置（女性_36才）
- 避難時のスポットがどこにあるのか実際に知らない。街でみかけてもすぐわかるような案内があるといいと思う。（女性_44才）

一時避難場所の確保

- 災害時の避難場所の確保。昼間人口の割りにその人たちが避難できる場所が身近にない（男性_46才）
- 靖国や皇居では機能しないので、公園などの誰もが共有できる広いフリースペースが必要。（男性_49才）
- 大学以外の避難施設を確保拡充する事（男性_50才）
- 千代田区にある多くの施設（劇場やホテル）を災害時は解放する。（女性_22才）
- 大学だけでなく、企業のオフィスの一時開放協力体制を構築する。（女性_23才）
- 区内の病院、飲食店等も一時避難場所として解放（女性_30才）

4-3 昼間区民への災害時支援体制施策として期待すること（新たな取り組み）

Q10 上記の取り組みの他に、どのような取り組みが必要だと思いますか？ 具体的な取り組み方法があれば、ご記入ください。

区外、官公庁との連携

- 国の施設との連携（国会、省庁）は千代田区ならではなのに全く触れられていないのはどういう訳か。国、都の施設も帰宅困難者対応をしているだろうから、連携して、重複無く効率よくやってもらいたい。もしやっているのであれば上記の中にしっかり書くべき。（男性_40才）
- 千代田区で被災した場合、住居のある場所は近隣ではなくほかの区や市をまたぐのがほとんどなので、区で完結しない連携した対策を行なって欲しい（男性_42才）
- 官民共同での具体的な対応（男性_47才）
- 千代田区というのは、申し訳ないけれども区民のことだけを考えれば良い区ではない。そこに恒常的に通勤・通学している人を含めても不十分。定期的に実態をきちんと把握して十分な備えをして欲しい。（区だけでできないことかもしれないが）（男性_48才）
- 病院や学校が多い地域なので、それらの立地条件を生かし、また、それらの施設同士の連携をより一層強化した対策を検討して欲しい。（男性_59才）
- 千代田区をまたいで通勤・通学する人は多いのであらゆる地域への帰宅を考えると周辺の区や市との連携も考えるべき（女性_33才）

公共交通機関との連携

- JRや東京メトロその他交通網との連携を深めることでいろいろ解決することもあるのではないでしょうか。東日本大震災時の、さいたま方面でのバスの活躍ぶりには感銘を受けました。（男性_35才）
- 鉄道事業体（JRやメトロ）や大規模企業との、災害時の連携、協力体制をもっと緊密に整備する必要があると思います。（男性_36才）
- 地下鉄やJR等と協力してとりくむこと（男性_43才）
- 各鉄道との連携→駅に溢れている帰宅困難者を空いている避難施設に案内してもらう。（女性_21才）
- 電車が一番混雑、混乱する場所なので、駅内での対応を統一しすばやく対応すること。（女性_25才）
- 交通機関運行状況の現状と予測をいち早く知らせるための　鉄道会社との連携（女性_59才）

災害弱者支援

- 体調を崩した人のための対策、傷病人対策（男性_36才）
- 災害、交通麻痺時の負傷、急病者の救護体制づくり（男性_48才）
- 災害弱者への支援体制（女性_27才）
- 障害者に対する配慮や対策が一切明記されていない。（女性_29才）
- 妊産婦へのフォロー（女性_33才）
- 高齢者・障害者の支援対策。（女性_36才）
- 千代田区は病院が多いので、医療施設への支援も必要なのではないでしょうか。（女性_37才）
- 日本語がわからない、地震を経験したことがない外国人への支援はどうなるのか不安です（女性_37才）

その他

- 台風等、あらかじめ事前に予測が可能な災害に関しては、事前に周知するような取り組み（男性_30才）
- 避難の際の誘導や、案内の正確さ（男性_30才）
- 災害発生時における治安維持の取り組み（男性_34才）
- 上記のような活動でよいと思うが、定期的（年1回程度）に見直す必要があると思う。（男性_41才）
- 取り組みは重要であるが、実際に震災が起こった場合に、帰宅難民者に対して、食料などをどのような手段で渡すのか具体策が見えない。（男性_42才）
- 良い取り組みだが、対応しきれるのか疑問（男性_46才）
- 東京湾であっても、津波対策、液状化対策は必要。荒川などの河川に、今よりも多くの橋が必要（男性_47才）
- それぞれ個々が災害対策の意識を高める必要があると思う（男性_50才）
- 想定されている直下型地震での昼間区民の被災者対策。実際に地震が起きれば昼間区民は帰宅困難者というよりも被災者そのものになると思う。（男性_50才）
- 昼間だけでなく、飲食店等夜間に働く者への対策も講じてもらいたい。（男性_52才）
- ビルやホテルなどの通勤・通学者の分散化。（男性_55才）
- 停電時、特に夜間の場合の対応。冬季の暖房への対応など（男性_55才）
- 区内に事務所、事業所をもっている人を対象に対策がなされているように見えるが、路上、用事があって来区している人の対策が良く見えない。（男性_69才）
- マンション管理組合に備蓄物資購入費を助成するならば、災害時に当該マンション組合員以外の人が救済を求めたときでも拒まずに提供できる体制は必要だと思った。（女性_30才）
- 役割分担を明確にし、準備に偏りが発生しないことを求めます（女性_36才）
- 災害後の生活保障についての知識。保険や援助金その他。（女性_38才）
- ボランティアを学生に限定するのはいかがなものか。事業所にはすでに様々なボランティアに取り組んでいるところもあるのだから、そちらとも連携すべき。（女性_43才）

4-4　昼間区民への災害時支援体制施策として期待すること（災害当日の施策）

Q10　上記の取り組みの他に、どのような取り組みが必要だと思いますか？ 具体的な取り組み方法があれば、ご記入ください。

災害時の情報提供

- 前に台風で電車が動かず歩いて帰ったんですが情報がなくこまりました、コンビニなど広告用にTVを外向きに設置、災害時にはニュースなどを流すといいと思います。（男性_41才）
- 効率的な災害時の情報提供方法。スピーカーで叫ぶとかはやめてほしい。（男性_42才）
- 区独自の防災無線網など、災害時にも失われない情報インフラの拡充。（男性_44才）
- 1つの区でできることは限られるので、隣接する区や都との情報連携を密にし、無線連絡網や2輪等による電子機器に頼らないすばやい情報交換体制の確立が必要。（男性_49才）
- 迅速で正確な情報の提供とその情報を広く提供する仕組み。災害発生時にまず一番先に必要なものが抜け落ちてる。（男性_51才）
- 正確な情報配信と公共交通機関の混乱を招かない動かし方の検討と準備（男性_53才）
- これらの情報を、平時、非常時ともに受け取ることのできる情報網の確立。（女性_31才）
- 災害時における区からの災害情報の発信。twitter等で発信することにして、事前にそのアカウントを昼間区民に周知する。災害時もビルの電光掲示板などでアカウントを流したりして、一人でいる帰宅困難者もパニックにならないようにさせる。（女性_31才）
- 携帯やスマートフォンも充電には限界があるので、正確な情報を取得できる場所の提供・配備（女性_33才）
- 災害時に信頼のおける情報を提供してくれる組織作りと、情報受信の方法の周知。（女性_34才）
- 災害時にだれでも情報を得られる状況が欲しい。（街頭アナウンス、ラジオ、ネットニュース）（女性_39才）

災害時の個人通信の確保、安否確認手段

- 携帯基地局の行政による準備（男性_34才）
- 家族に連絡を取ったりが、スムーズにできる環境を作る事。有事の際には、やはり家族などの安全が確認されるとされないでは大きな違いがあるから。（男性_38才）
- 災害時に自分の安否を確認できる通信設備を用意しておいてほしい（女性_21才）
- 災害発生時には通信網が機能しなくなるので、家族と連絡が取れる等通信面でのサポートをしてほしい。（女性_29才）
- 非常時通信手段の確保。東日本大震災時、一番困ったのは食糧や水、御手洗いではなく「通信手段が確保できないこと」だった。激減してしまった公衆電話の再設置、災害に強い携帯電話インフラの整備等があれば心強いと思う。（女性_33才）
- 昼間区民の住所を把握して、災害が起こったときに、居住区の役場に千代田区の避難所にいるという連絡がいくようにすると良いと思います。（女性_37才）
- 帰れない事が、困難理由ではなく、家族と連絡が取れないのが一番心配ごとだと思う。 何処にいても連絡が取れるようにしてほしい。（女性_46才）

災害時の交通渋滞対策

- 東日本大震災では、鉄道の運休により自動車の台数が増加した。その中で、警察・消防は救助もしくは応援に駆けつけなければならないので、ラッシュ時に大規模な緊急走行訓練を行う必要があると感じた。（男性_22才）
- 災害時の迅速な交通網の確保のため、各エリアの車両制限（所持・入場等）を設けるべき（男性_29才）
- 路上駐車が邪魔、緊急時に障害となる（男性_33才）
- 有事の際の交通規制の実施（男性_39才）
- 災害時の車の区域内への進入規制、利用規制。一般道路を自転車・歩行者への開放、平常時からの自転車道の整備（男性_45才）
- 避難、帰宅時の交通渋滞の回避。緊急車両の優先、車利用の自粛徹底、乗り捨て車の駐車場確保など（男性_47才）
- 発生直後に自動車利用を制限しないと緊急車両や物資の運搬に支障が生ずるのではないか。（男性_57才）
- 他区というか都全体での取り組みとなると思うが、災害時の交通渋滞の緩和を目指してほしい。交通ルートの管理者を設けるなどして。（女性_27才）

5-1 災害対策（震災時の行動）

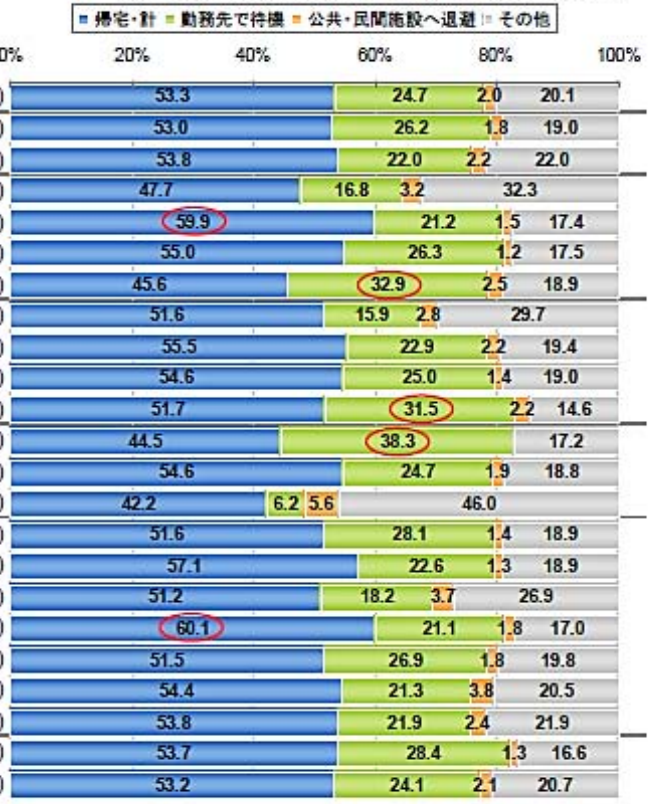
➢東日本大震災時に「帰宅した」が半数を占める。「勤務先待機」は25%。「公共・民間施設へ退避」は2%にとどまる。男性30代、神田公園出張所では「帰宅した」が6割を占める。一方、男女50代以上、公務員では「勤務先待機」が3割以上となっている。また、避難所を利用しなかった理由として「避難所情報の認知不足」が挙げられている。

➢今後の震災時の行動意識を見ると、「勤務先待機」が47%、「帰宅」が38%と、東日本大震災時に比べ「勤務先待機」が増加している。属性別に見ると、今後の行動においても男性30代、神田公園出張所では「帰宅」が高い傾向。一方、男性50代以上、公務員では「勤務先待機」が6割を占める。

東日本大震災時の行動

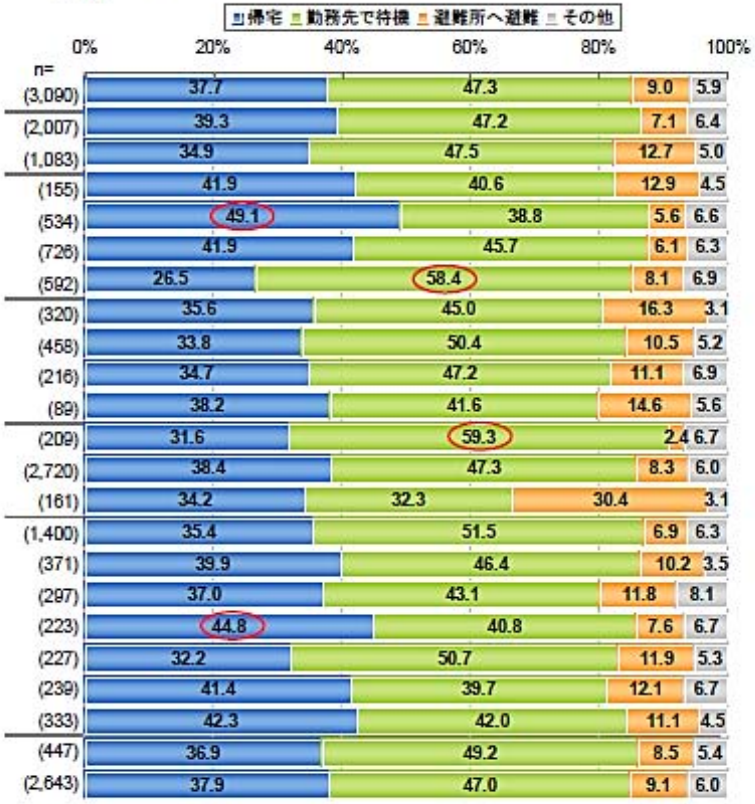
※全体ベース

●避難所を利用しなかった理由（避難所非利用者）
「避難所を知らなかった」 41%
「避難所は地域住民のための場所と思った」 10%



今後の震災時の行動

※全体ベース

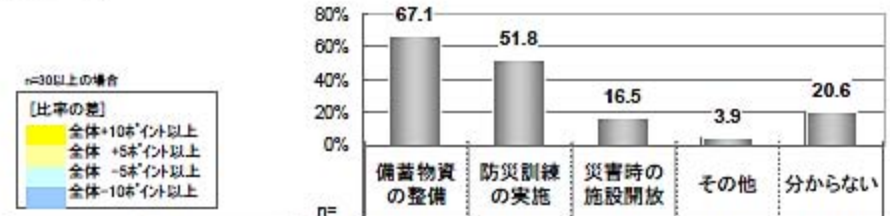


5-2 災害対策（企業・学校の対策状況）

- 災害に対する企業や学校の対策として、「備蓄物資の整備」（67%）、「防災訓練の実施」（52%）といった対策が主に周知されている。麹町出張所では、「備蓄物資の整備」が75%、「防災訓練の実施」が63%と他出張所よりも周知が進んでいる。
- 東日本大震災後、企業や学校の対策に変化があったことに気づいた人は54%。具体的には、「備蓄物資の整備」（44%）、「防災訓練の実施」（24%）が上位に挙げられている。地域活動参加経験者では、対策への意識が高く、対策に変化があったことを認知している人が8割にのぼる。一方、和泉橋出張所では対策の周知率が低く、震災後の対策変化の周知も低率となっている。
- 不安に感じている災害として、昼間区民の9割が「地震」を挙げている。

災害に対する企業や学校の対策

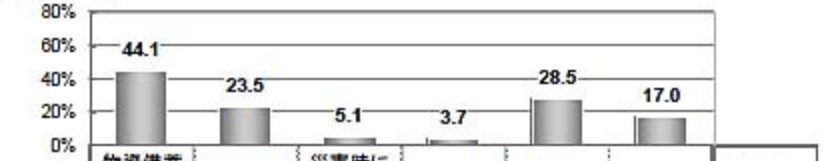
※全体ベース



		n=	備蓄物資の整備	防災訓練の実施	災害時の施設開放	その他	分からない
全体		(3,090)	67.1	51.8	16.5	3.9	20.6
職業別	公務員	(209)	78.9	64.6	29.2	1.0	11.0
	その他有職者	(2,720)	67.3	52.2	13.9	4.4	20.5
	学生	(161)	49.1	28.6	44.1	-	35.4
出張所別	麹町出張所	(1,400)	74.9	62.7	18.1	2.7	14.6
	富士見出張所	(371)	68.2	53.9	16.2	2.7	19.9
	神保町出張所	(297)	60.3	44.4	22.9	5.1	24.6
	神田公園出張所	(223)	61.0	36.8	10.3	5.4	27.4
	万世橋出張所	(227)	64.3	39.2	15.9	3.1	24.2
	和泉橋出張所	(239)	51.0	31.0	6.3	11.3	32.6
	分からない	(333)	56.8	43.8	16.2	3.9	27.9
地域活動別	参加経験あり	(447)	83.0	75.8	25.1	2.9	4.5
	参加経験なし	(2,643)	64.4	47.7	15.1	4.1	23.4

東日本大震災後で変化した企業や学校の対策

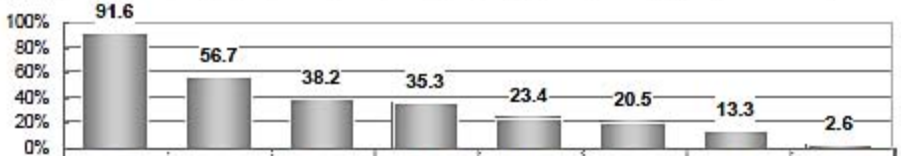
※全体ベース



n=	物資備蓄を始めた、増やした	防災訓練を行った	災害時に施設を開放へ	その他	変化はなかった	分からない	変化あり・計
(3,090)	44.1	23.5	5.1	3.7	28.5	17.0	54.4
(209)	39.7	22.5	6.2	4.3	25.4	23.0	51.7
(2,720)	45.9	23.9	4.9	3.6	29.3	15.1	55.7
(161)	19.9	18.0	8.1	5.0	20.5	42.2	37.3
(1,400)	46.0	27.7	5.6	4.1	26.4	16.1	57.4
(371)	47.7	26.7	4.0	5.4	22.1	16.7	61.2
(297)	38.0	19.2	6.1	4.4	29.6	22.9	47.5
(223)	48.4	15.2	4.0	1.3	30.9	14.3	54.7
(227)	50.7	22.5	5.3	4.4	31.3	11.5	57.3
(239)	39.3	14.2	3.8	1.7	41.8	13.0	45.2
(333)	33.6	18.6	5.1	2.1	30.6	24.3	45.0
(447)	64.9	46.8	10.1	4.7	13.0	7.2	79.9
(2,643)	40.6	19.5	4.3	3.5	31.2	18.7	50.1

不安に感じている災害

※全体ベース



	n=	地震	テロ	感染症	豪雨	暴風	洪水	降雪	その他
全体	(3,090)	91.6	56.7	38.2	35.3	23.4	20.5	13.3	2.6

※全体値の降順でソート

5-3 災害対策（不安に感じている災害の理由）

Q17 では、千代田区で住み・働き・学ぶ上で、下記の災害を不安に思う理由があればご記入ください。

地震

- 通っている大学の校舎の老朽化が激しく、耐震性に不安がある。（男性_20才）
- 埋立地なので、地盤が弱い。（男性_35才）
- 高層ビルが多いので、地震のときは隣のビルと自分のビルがまるで竹林のように揺れていた。次回も免震が効くのか不安。（男性_38才）
- 地下鉄に乗っている時に地震がきた場合、地下鉄の近くに川や堀があるので水没の可能性がある。（男性_41才）
- 交通機関の混乱により帰宅できないかもしれない。会社で待機するとしても、停電や断水のおそれがある。（男性_46才）
- 超高層ビルが多く、地震時のエレベータ停止、室内家具等の転倒・移動による災害などが予想される。（男性_46才）
- 高層建築物、老朽化建物、建築現場それぞれに応じた避難対応、周辺通行路の確保。（男性_47才）
- 311でも道路も歩道も渋滞していたので、直下型地震が起きた場合非難ができなさそうなので。（男性_47才）
- ビル倒壊、地下に閉じ込められる可能性、パニック。（男性_47才）
- 帰宅が困難になる。勤務者が非常に多いので、帰宅までの生活の支援体制が不安。（男性_51才）
- 避難場所が少ない、収容能力が足りない。（男性_53才）
- 自宅から遠いので、電話が通じずに家族との連絡がとれなくなること。（男性_54才）
- 首都直下型地震の発生が予想されているため。湾岸部から比較的近く、津波などの被害も心配。（男性_58才）
- 火災発生時の避難先が分からない（風向き等で変える必要がある）、避難場所が安全なのかどうか分からない。（男性_59才）
- 建物が密集していて火災が心配。 古いビルがたくさんある。（男性_59才）
- 交通を含めインフラの復旧に時間がかかる。（男性_63才）
- ビルなどの建物が多いため、安易に外に避難するわけにはいかないから。ガラスなどの破片が心配（女性_25才）
- 帰宅できるまで、どこに居られるかわからないから。（女性_25才）
- 会社のビルの築年数が古く、耐震が万全ではない。（女性_28才）
- 幹線道路以外は狭い道が多く、建物が建て込んでいるから。（女性_39才）
- 場所によっては地盤が弱いとテレビでやっていたので、耐震構造のビルにいても直下型地震のときにどうなるのか不安。（女性_40才）
- ビルが多いので、ガラスが降ってくるのではないかと心配。（女性_42才）
- 高層ビルが多く逃げ場がない。企業が多く人が多いがコンビニがあまりないため万が一の時に食べるものや飲み物が不足する。（女性_44才）
- 地下鉄で通っているので、電車で地震がおこった場合、どのような対策を考えてるかわからない。（女性_48才）
- ビルの倒壊や振動による被害、大勢の中にいるときのパニック状態に巻き込まれるかもしれないこと、帰宅できなくなること。（女性_51才）

暴風

- ビル風がつよく高層ビルがゆれる。（男性_35才）
- 昔と比べて、少しでも風が強くなると早々に鉄道が運休してしまい大混乱になる。（男性_43才）
- 交通機関の麻痺。通信手段が使えない（男性_43才）
- 飲食店とオフィスが混在する地域が多く、路上の看板や自転車など風よって飛ばされるものが活動範囲内に多い。（男性_44才）
- 看板などが多く、屋外での事故が起こりやすいと思うので。（男性_49才）
- 今まで暴風が命に係わることはないだろうと感じていたが、最近の気象は今まで以上に激しい場合があるのでそれに備えられているのか不安。（女性_26才）
- 普段からビル風が強い。地下街が発達していないので地上を歩かざるを得ない。（女性_30才）
- ビルが多いので、ビル風がより暴風をグレードアップさせてしまいそう。（女性_33才）
- 先日の竜巻の被害を見ていると、千代田区で起こっても不思議ではないから。（女性_34才）
- 昨年と今年に起きた暴風雨でビルが地震のように揺れたり、外では看板などが飛んできたりして、孤立したような恐怖を感じたから。（女性_35才）
- 電車が全線ストップしてしまい、帰宅どころか電車に閉じ込められてしまう可能性がある。（女性_41才）
- 交通機関が集中しているので止まると人があふれパニックになりそう。（女性_43才）
- 帰りの交通機関が停止することによって、帰宅が難しくなる。（女性_43才）
- 暴風で看板やビニールが飛び、電線にひっかかり、電車が止まるので。（女性_45才）

豪雨

- 洪水時のハザードマップをみて。（男性_36才）
- 電車が止まれば帰宅できないし、子どもを保育園までお迎えに行けない。（男性_37才）
- 水はけの悪さと地下街の防水対策。（男性_38才）
- 神田川が氾濫しそうなので。（男性_40才）
- 停電、交通機関のストップ。（男性_43才）
- 勤務場所が地下のため、豪雨・洪水が不安。（男性_44才）
- 海抜が低く、地下鉄での移動時に豪雨の影響で運転が停止し、暗い中で動けない状況が怖いです。（男性_51才）
- ゲリラ豪雨が発生すると神田川流域近くでは、マンホールから水が吹き出ているのを目撃した。（男性_61才）
- 坂が多いので、水の勢いが強くなりそうだから。（女性_24才）
- コンクリートだらけのため、大量の雨量があふれ出し、浸水するのではないか。（女性_27才）
- 豪雨で電車が止まってしまうのが不安。大きな橋を途中渡るのでそこで止まったり事故になったりしたら怖い。（女性_29才）
- 近くに川が通っているので、豪雨が降ると水位が上がり、洪水になるのが心配。（女性_32才）
- 地下に雨水が入り込むこと。土嚢の備蓄量。（女性_35才）
- 交通機関が集中しているので止まると人があふれパニックになりそう。（女性_43才）
- ゲリラ、で終わればいいのですが、長い豪雨は交通や地盤に影響を与えるので不安。（女性_45才）

5-4 災害対策（不安に感じている災害の理由）

Q17 では、千代田区で住み・働き・学ぶ上で、下記の災害を不安に思う理由があればご記入ください。

降雪

- 雪かきがされず、朝方歩道が凍結している。（男性_34才）
- 大都市は雪になれていないので、車のスリップによる交通事故や歩行時の転倒による大怪我が不安。（男性_40才）
- 坂が多いので。融雪剤とか撒いているのを見ますが、それでも怖いですね。（男性_40才）
- 横断歩道が凍結していたため自転車に乗っていて転倒したことがある。（男性_43才）
- 東京都心の交通網は雪に非常に弱いから。（女性_27才）
- 交通機関が麻痺したら帰るのが困難。交通機関の混雑。民間の任意でしか道の雪かきがされない。（女性_34才）

洪水

- 排水設備の老朽化。（男性_40才）
- お堀があったり、神田川を抱えたりしている一方で低い土地が多い。首都高速なんか、もともと暗渠だったりするわけで、場所によっては導水路になってしまうのではないかという気もする。（男性_48才）
- 東京湾の津波の影響が公表されていないことが不安。（男性_53才）
- 水はけが悪そう。地下鉄にも入り込みそう。（女性_29才）
- 地下にいて洪水にあった場合の避難経路を知らないから。（女性_34才）
- 神田川の氾濫やお堀の水の水位増加が不安。（女性_42才）
- 交通機関の混乱。洪水後の病気等。（女性_45才）

新型インフルエンザなどの感染症

- 人や病院が多いので感染が広まりやすいのではないか。（男性_22才）
- 人口密集のため、電車あるいはオフィスでの感染リスクが依然として高いまま。（男性_36才）
- 色々な国・地域から，人が集まってくる場所であるため，感染症の流入が心配。（男性_44才）
- 目に見えないが強烈な災害となりうるから。（男性_50才）
- さまざまな地域からたくさんの人が通勤通学しているので人が多いということは感染症のリスクも高まる。（男性_51才）
- 昼間人口が多く 交通の便も良いことから 感染症等広まりやすい。（男性_54才）
- 人が多過ぎる、人種が多過ぎるその中に明らかに感染に無頓着な人がいる。（男性_69才）
- 人の出入りが激しく、感染しやすい環境にあるため。（女性_27才）
- 外国人の観光客も多いので、外国から持ち込まれたウィルスへの感染が心配である。（女性_30才）
- 人が多いし、空気が悪い地下移動が多いので心配。（女性_33才）
- 防ぐ手立てが無いところが怖い。（女性_34才）
- 職場や通勤時の電車の中など、長時間密室にいることになるので人から感染しないかと不安になる。（女性_40才）
- 人が集まる場所が多いので、万が一感染が始まったときに、どこが原因か？どこをつぶせばよいかわからない気がする。（女性_44才）

テロ

- いつどこで起こるか分からず、どう行動すればよいかも分からない為不安。（男性_22才）
- 都心部で、人口も多いので狙われる可能性が高いと思うので。（男性_32才）
- 自然災害はある程度の予想が出来るし、心がまえがあるが、テロには全く備えがないから。（男性_33才）
- 日本の政治・経済の中枢を担うエリアであるため、テロの標的になる可能性は十分にあり得ると思うから。（男性_34才）
- 人が多すぎて危険人物の行動（テロの予兆）を感知できないから。（男性_35才）
- 地下鉄サリン事件のように、無差別テロに対する脆弱性がある。（男性_39才）
- 外資、金融その他国内有力企業が丸の内に集まっているので狙われる恐れあり。（男性_42才）
- 官庁街なので攻撃目標とされやすいという不安がある。（男性_43才）
- パニック的な状況になった時にどのようになるのか予想がつかない。（男性_43才）
- 靖国神社の近くに勤務している。反日を目的としたテロなら起きてもおかしくない。（男性_43才）
- 重要施設が多いので爆発物や薬品テロに巻き込まれるリスクがある。（男性_44才）
- 防止策が見えない、警官が立っているだけではまったく不十分。（男性_48才）
- 首都という特性から、日本に対する示威行為の目標になってしまう可能性はあると思っている。あるいは官庁・大企業への反発とか。（男性_48才）
- 秋葉原では無差別殺人もあり、自分で気をつけていても防げない事もあると思う。（男性_49才）
- 破壊行為をするのに適した目標がある・・・三権や大使館、大企業の本社が集まっているから。（男性_50才）
- 都会の中心部で、隣の人が何をしても解らない今。テロの危険性は100%有るのでは。（男性_64才）
- 中心部であるために、あらゆる組織から狙われそうだから。（女性_24才）
- 政治の中枢なので、ほかの区よりも神経を配るべきとは思う。（女性_28才）
- 大使館などがあるため、国際的なテロが起きないか心配。（女性_31才）
- 千代田区は日本の中枢であるため、やはり狙うなら千代田区ではないかと。（女性_33才）
- 皇居や国会議事堂など日本の主要な施設が千代田区に集中しているため。（女性_33才）
- ビルに入るときも特にセキュリティーチェックはないので、どこにでも爆弾をセット出来そう。（女性_48才）
- 外国のようにテロがないのは本当に安心だが、これからの世の中、おこらないとは限らない。そのとき、どんな行動をとればいいのか不安。（女性_57才）

その他

- 右翼団体と思われる車両からの、抗議行動。不安かつうるさく迷惑。（男性_29才）
- 繁華街と閑静なオフィスが隣合っているので、火事場に乗じた窃盗、暴行等の犯罪が怖い。（男性_39才）
- 交通マヒによる消火活動の遅れ。（男性_42才）
- 勤務先や通勤経路上でどうすれば、とるべき行動の準拠となる正しい、正確な情報が得られるかがよくわからないから。（男性_68才）
- 海が近く、海沿いにマンションやホテルがあるため、津波の際に流されてくるものもどんなものが来るか想定できないので怖さを感じる。（女性_32才）
- 海抜が低いので（勤務先は海抜約6m）、津波による被害が心配。（女性_35才）

総括

●25の施策のうち、「昼間区民災害時支援」「建物耐久化」は重要視されているが、
達成度評価が低く、何かしらの改善が必要であると思われる。

●地域活動への参加者は15%と低いものの、事務事業の認知や評価が高い。
地域活動非参加者は、取り組みを情報不足が原因である。

上記より、改善の方向性としては、
「取り組みの周知」や「地域活動の参加呼びかけ」であると考える。
さらに、若年層に対しては、単に周知させるだけでなく、
活動の有効性を啓蒙することで、関心そのものを高める必要がある。

●災害時の新たな施策としては、
「様々な機関との連携」や「案内標識の設置」、「避難所の確保」といったものや、
災害当日の支援を求める声が多い。

●昼間区民が不満に感じているのは、
震災の影響とビルの多さ・建物の老朽化などを理由に「地震」を挙げる人がほとんど。
それに加え、千代田区の特性として「テロ」や「感染症」への不安を解決すべく、
新たな施策を検討する必要もあると言える。